

スペイン. 文学の旅

訳例と解答例

15. はたご屋『猫』(7), p.30

とうとう私はそのはたご屋に着いた。見覚えがあったのは、ほかでもなく、まだその壁に大きな文字で書かれた看板があったからである。というのも、家は形も大きさも変わってしまったかのように見えたからだ。もちろん以前と比べてずっと荒れ果てて寂しい姿になっていた。墓場の影が奥の方からここまで延びてきて、まるで死衣のようにその黒い影で家を包み込んでいるようだった。

人けのないテーブルの一つに腰掛けて飲み物を注文した。宿屋の主人が運んできたが、ひとことふたこと話すうちに、やがて話題はある若者の恋物語になった。その結末については私は何度も興味をもって推測しようとしたのだがまだ知らずにいたのである。

*L2. conservaba escrito con grandes letras のところで、con と書いてあるのは「字と共に書かれて残っている看板」という意味になるのですか？

→いいえ、con grandes letras は escrito にかかります。「大きな文字で書かれたまま残っていた看板」という意味です。それを上では「まだその壁に大きな文字で書かれた看板があった」と訳しました。

*por nada はどういう意味ですか？

→L1 の más por el rótulo... que por nada という対応で比較構文になります。「何よりも」「ほかでもなく」という意味です。

*L3. ここの hasta はどういう意味ですか？

→「家は形も大きさも変わってしまったとさえ思えた」という意味の強調になります。副詞的に強調する hasta の用法です。

*L5. ruinoso, abandonado y triste は訳に入っていないようですが？

→「荒れ果てて寂しい姿になっていた」の部分に対応します。正確には「廢墟のよう

に、棄てられて、寂しい様子だった」となります。

* L6. 「墓場の影が奥の方から」とするのは、「私」と「家」と「墓場」の位置関係を考慮しての訳ですか？

→そうです。次に「ここまで延びてきて」という句があるので、始点と終点を示しました。

* L6. *alzarse* をどう訳出すればよいのでしょうか？

→*alzarse* は「立ち上がる」という意味ですが、ここでは影が「奥の方からここまで延びてくる」という意味になります。「立ち上がる」というときの起点と終点を意識して、比喩的に表現されています。

* L6. *hasta él*. なぜここには男性として扱われているのか？

→男性名詞の *caserío* を指しています。人称代名詞の主語の形は、前置詞の後であれば「物」であっても使うことができます。

* L8. *que me sirvió el ventero* の *que* は何でしょう？

→*algo de beber* を先行詞とする関係代名詞です。

* L9. 「ひとことふたこと」とは *de una en otra palabra* の訳ですか？

→そうです。そして、*suelta* という形容詞の意味も勘案しました。

L9. 「ひとことふたこと話すうちに」ではなくて、「少しずつばらばらに話す」という意味にはなりませんか？

→宿屋の主人は、いろいろなことを少しずつばらばらに話していたのではなく、言葉少なく、ぽつぽつと話していた感じがします。そこで、L9 の *al cabo* 「ついに、やっ」という副詞句が使われていると思われまます。

* L10. 「ある若者の恋物語」. 14 に出ている若者なのに、「ある」としてよいのですか？

→その通りです。「二人の恋物語」に訂正します。

L11. 「まだ知らずにいたのである」というのは、文意から補ったものですか？
→いいえ、ignoraba todavía の訳です。

*L11. a pesar de haber interesado adivinarlo varias veces の構造は？
→adivinarlo varias veces が不定詞 haber interesado の主語になります。

●EJERCICIO, p.35

- (1) フアンは誰よりも勤勉だ。
- (2) 私はかつてないほど忙しい。